

肺炎球菌予防接種説明書

～ 接種を受ける前に必ずお読み下さい！ ～

肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、咳やくしゃみなどを通じて飛沫感染します。日本人の約5～10%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が増殖し、下気道や血流中へ侵入することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

1. 肺炎球菌感染症の予防

予防の基本は、予防接種を受けることです。また、インフルエンザと違い流行期がありません。したがって、日常の健康管理と規則正しい生活と栄養価の高いバランスのとれた食事、うがい・手洗いの励行・口腔ケアなどが重要です。

2. 肺炎球菌予防接種の有効性

肺炎球菌には、100種類以上の血清型があり、定期接種で使用される沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)は、そのうち20種類の血清型を対象としたワクチンであり、この20種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症()の原因の約5～6割を占めるとい研究結果があります。

また、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)は、血清型に依らない()侵襲性肺炎球菌感染症全体の3～4割程度を予防する効果があるという研究結果があります。

侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

3. 予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

肺炎球菌予防接種について、説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないで下さい。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない方

明らかに発熱のある方

一般的に、体温が37.5 を超える場合を指します。

重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方

急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の变化がわからなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。

ジフテリアトキソイドによってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方

その他、医師が不適當な状態と判断した場合

上記に該当しなくても医師が接種不適當と判断したときは接種できません。

(3) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない方

免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方

心臓、腎臓、肝臓、血液の病気がある方

これまでに、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方

けいれんを起こしたことがある方

沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)の成分や、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)にも含まれるジフテリアトキソイドに対してアレルギーを呈するおそれのある方

血小板減少症や、凝固障害のある方

抗凝固療法を受けている方

(4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師や医療機関とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。

接種後に発熱したり、接種した部分がはれたり、赤くなったりすることがありますが、一般にその症状は軽く、通常、数日中に消失します。

入浴は差し支えありませんが、注射をした部位を強くこすることはやめましょう。

接種当日はいつもの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

4. 肺炎球菌予防接種の副反応

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシー、痙攣(熱性痙攣含む)、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。

また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。

予防接種を受けたあと、接種した部位が傷みや熱をもってひどくはれたり、全身のじんましん繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師や医療機関の診療を受けてください。

報告頻度	10%以上(注)	1~10%以上(注)	1%未満(注)	頻度不明
皮膚			発疹、そう痒症、多汗症、脂肪腫	血管性浮腫、多形紅斑、蕁麻疹、蕁麻疹様発疹
呼吸器			咳嗽、鼻咽頭炎	呼吸困難、気管支痙攣
局所症状(注射部位)	疼痛・圧痛(59.6%)	紅斑、腫脹	そう痒感、血腫、熱感、蕁麻疹	皮膚炎、硬結、上腕の可動性の低下
胃腸障害			胃炎、下痢、腹部不快感	食欲減退、嘔吐、悪心
血管及びリンパ系障害				注射部位に局限したリンパ節症
筋・骨格系	筋肉痛(38.2%) 関節痛(11.6%)		筋浮腫、筋骨格硬直	筋肉痛増悪、関節痛増悪
精神神経系	頭痛(21.7%)		不安、味覚不全	中期不眠症、易刺激性、傾眠状態、睡眠増加、不安定睡眠、不眠
循環器			動悸	
過敏性反応				顔面浮腫、呼吸困難、気管支痙攣
その他	疲労(30.3%)		悪寒、腫脹、発熱、異常感、疼痛	

(注) 発言頻度は国内又は海外で実施した臨床試験の結果を合算して集計している。

5. その他

- ・ 接種医が可能と認めた場合、他の予防接種と同時接種をすることができます。
- ・ 接種の助成は生涯1回限りです。
- ・ 過去に高齢者肺炎球菌ワクチンを接種したことがある方は定期接種の対象外のため、接種予診票は使えません。
- ・ 肺炎球菌予防接種は対象者のうち接種を希望する方に行うため、接種義務はありません。接種を受けるご本人が、麻痺などがあって同意書に署名ができない場合や、病気などにより正確な意志の確認が難しい場合には、家族やかかりつけ医によって、特に慎重にご本人の接種意思の有無の確認を含め、接種適応を決定する必要があります。(最終的に確認ができなかった場合には、接種はできません。)